



佐川 秋夫 議員

学校給食問題について

問

一・学校給食で一食当たりに含まれる中国産の冷凍食品、冷凍野菜の使用割合と金額は  
二・中毒事件発生以降、給食調理に何か配慮又は対策をしたか。  
三・「地産地消」のかけ声には「言うは易く行うは難し」と思うが具体策は

答 上田教育長

一・伊予市の学校給食一食当たりの食材に含まれる外国産の割合は、市内学校給食調理用において一部中国産の食材を使用していた事例があった。なお、当食材については中国産冷凍ギョーザ中毒事件に起

因するものではなく、納入業者等により安全性が確認されており、一部使用していた食材については現在使用中を中止し、国産品に切りかえ、給食の提供を実施している。

二・中毒事件発生直後において直ちに調査を行い、疑わしい事例がある場合は、報告を求めるとともに、当分の間該当食品の使用を中止するよう対応をとっている。現在の対策としては、冷凍食品、加工食品の使用は、納入業者に加工工場や原材料の生産地を確認するなど中国産のものは使用しないよう対策を講じ、できる限り国内産を使用するよう努めている。

三・学校給食は第一に安全で安心な栄養バランスのとれた学校給食の提供である。市内の給食調理場においては一日の給食数、食材の費用、数量にもばらつきがあるとともに、農産物においては気象条件等により品数が揃わないなどの不便さがある。また、市内の一部調理場においては干しシイタケ、加工食品など地元産

を食材に提供している調理場もあり、今後は生産者の顔が見える食材を十分に食育に活用していきたい。

おおひら保育所の改築について

問

地域の将来を見据え、既存の土地売却も考えた中で、より利便性の良い、新しい場所での検討をする考えは持たれてないか。

答 中村市長

おおひら保育所は公立保育所の中でも最も古く、昭和三十三年に建築された施設であり著しく老朽化が進んでいる。



おおひら保育所

子供たちに安全で安心な保育環境を提供することが急務であり、今議会において、おおひら保育所の建て替えに係る設計費の計上を行ったものである。

選定に当たっては、色々と検討を重ねてきた。その結果、幼児の数が大幅に上回ることはないと考えざるを得ないということ。入所定員の見直しを行い、適正な規模で整備を図ることとしたこと。また、建設用地の規模や総合的な経費を勘案して、施設の規模を適切なものにする。さらに、幼児を保育する上で環境を考えたとき、静かにかつ安全であること。

以上の内容について総合的に判断し、現在の場所で改築計画を進めることとした。改築に伴い、狭い箇所の改修や駐車スペースを確保し、送迎の利便を図りたいと考えている。

学校裏サイトの実態について

問

一・本市中学校で裏サイトの存在の有無  
二・存在した場合に、対策は

どうされたのか。  
三・存在しなかった場合でも今後発生しない保証はないので、今後の対応策を講じる考えは

答 上田教育長

一・学校・教育委員会が把握しているものは五件あり、今年一月以降書き込みがあったものは三件である

二・多くの書き込みがあったのは一件で、個人が特定できる内容もあったが、注意をしようような書き込みもなされており、誹謗中傷が続くような状況にはなっていない。

三・学校・教育委員会が監視を行い、問題になる書き込みがなされる場合は学校と連携をとりながら削除依頼や警察、関係機関への相談等、直ちに対応する。相談体制を充実し、被害の防止及びいじめの早期発見に努めていく。

その他の質問事項

- ・子育て支援政策について
- ・国保税の滞納状況について